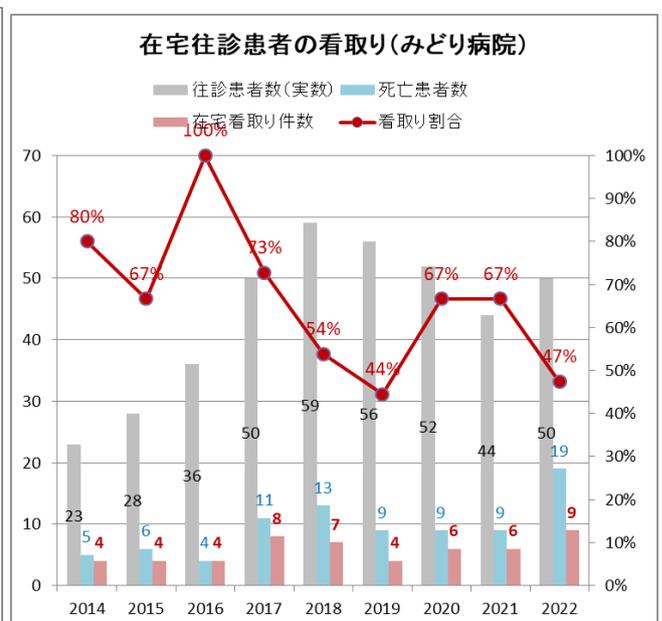
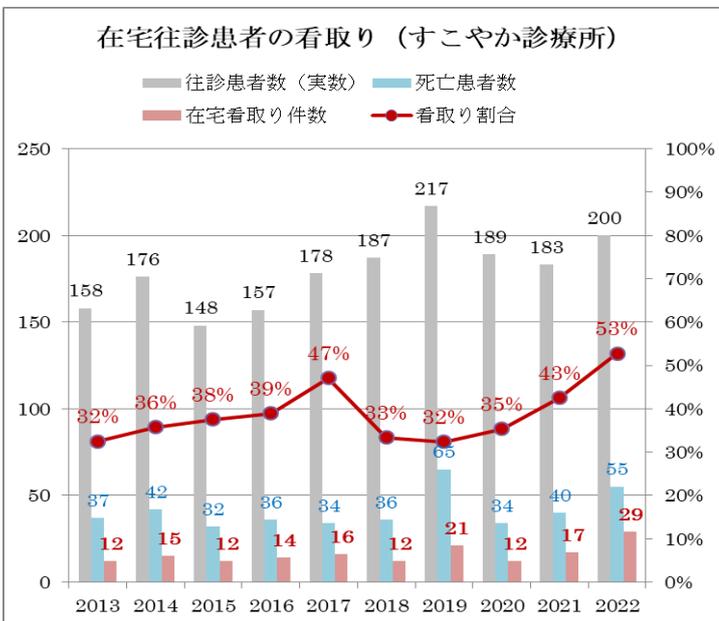




在宅往診患者の看取り

●在宅患者の看取り（自宅・施設）

終末期を住み慣れた自宅・施設で過ごし、最後の時の迎えたいという希望の患者様の為に、みどり病院・すこやか診療所在宅チームでは、医師・看護師・介護職等を他職種が協力してサポート体制をつくっています。



みどり病院の在宅往診患者は施設入居者が中心、すこやか診療所は自宅患者が中心となっています。すこやか診療所では死亡患者の内、毎年 30%以上の割合で、在宅での看取りを行っており、2022 年は、55 件（53%）でした。みどり病院は、6 件(67%)→9 件(47%)と死亡患者における看取り割合は減少しましたが、件数は増加しました。

在宅チームでは、在宅看取り患者について、振り返りカンファレンスを行い、事例について振り返りをする事で、多職種で関わったことの喜びや問題点が明らかになり、必要に応じて学習会を開催しています。

●在宅患者の終末期希望「私の心づもり」

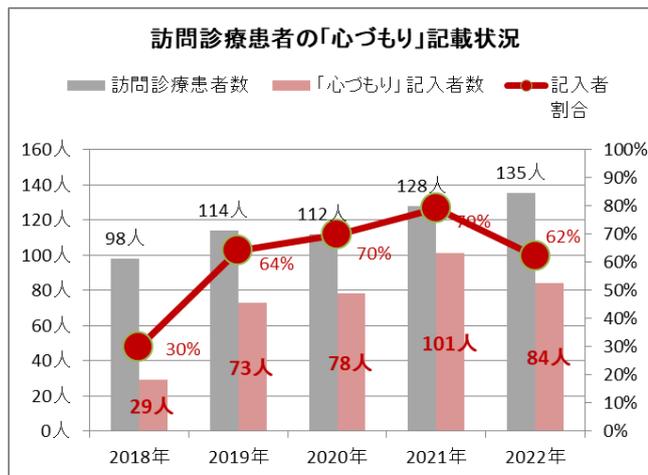
みどり病院隣接のすこやか診療所では、在宅往診患者に対し、終末期希望を「私の心づもり」として確認する取り組みを行っています。『将来、病状が悪化したり、もしもの時が近くなった時はどこで療養したいですか?』の記載欄に初回時から「自宅」と明確に書かれる方は半数程度です。ご本人もご家族も在宅開始時にはまだそこまで考えが及ばない状況や、考えたくない心境だったと推測されます。その時々で気持ちが揺れ動き変化し、見守る家族の気持ちも変化します。こまめに時々のそれぞれの思いの変化を聞き取り、何度も確認することにより在宅での看取りを希望される患者へは、その思いに添えるよう活動しています。

この取り組みも今年で6年目となり、在宅で聞き取った DNAR 情報は電子カルテで院内共有し、入退院

時など活用がひろがっています。また、「私の心づもり」配布対象をターミナル患者から全訪問診療患者に広げ、すでに聞き取りをおこなった患者に対しては、時間が経過による患者の病状の変化や気持ちの変化に対応するように定期更新しています。

2022年12月現在のすこやか在宅患者135名中84名（62%）が「私の心づもり」を記入済みです

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
訪問診療患者数	98人	114人	112人	128人	135人
「心づもり」記入者数	29人	73人	78人	101人	84人
記入者割合	30%	64%	70%	79%	62%



～命のバトンとの連携～

かねてより患者が独居だったり、同居家族が高齢の場合、急変時の救急要請で、患者情報が救急隊や搬送医療機関にうまく伝わらない事があります。そのため「私の心づもり」を含めた情報の集約が望まれていました。そこで、地域の活動として各家庭の冷蔵庫等に設置してある「命のバトン」（救急医療情報キット）に、すこやか診療所が作成した『緊急医療情報』を収納して緊急時には活用してもらうことにしました。本人情報、医療情報、緊急連絡先等を入れた用紙を「お助けマーク」等のシールを貼ったボトルに入れ冷蔵庫に保管。救急隊からの見つけやすさと平時に他人が中を見ないという利点があります。

【記載内容】

氏名、生年月日、住所、緊急連絡先、保険証情報、身障情報、介護保険情報
 基礎疾患、DNARの希望の有無、かかりつけ医療機関
 担当ケアマネ、利用している介護サービス

これらの情報をA4サイズの紙に印刷し、各患者宅に配布しました。

外部の人の目にも触れる事から情報に間違いがあってはいけないため、患者さんやご家族には何度も見てもらい確認したうえで、発行しています。

「私の心づもり」同様『緊急医療情報』も定期的に見直し、情報を最新のものにしていく事が重要となります。取り扱いについても、細心の注意を払い継続していきます。どのような最期を迎えたいかは、とてもデリケートな問題ですが、心を通わせ寄り添うことにより、信頼関係を築き正面から向き合っていきたいと思えます。